



研究課題の事後評価結果(概要)

研究課題に関する所見

■ 30研究課題の成果の創出状況

<成果>

- 多くの研究課題で、特筆すべき研究成果や科学的知見が得られており、総じて世界トップ水準の成果を創出
 - 産学官協働や国際協働による頭脳集積と、研究費の大胆な選択的集中投入によって、世界をリードする高精度で大型の研究開発基盤を創成
 - 新たな学問領域・技術開発に挑戦し、科学的価値のある成果の創出・理論の提唱
 - 出口を見据えた研究開発の推進によって、社会実装を加速させ、国民に夢と希望をもたらす成果を創出
- 近い将来、FIRSTの研究成果が、大きな経済効果の発現や、新学問領域の発展につながると期待

<今後の課題>

- 研究課題側の自助努力を基本としつつ、社会還元をより加速させる環境の整備が重要
- 目標未達も含めた研究成果公開は、前例が乏しいが、革新的知見の創出可能性を高める取組として重要

社会実装に向け、新しい時代を切り拓く

山中 伸弥

京都大学iPS細胞研
究所／所長・教授



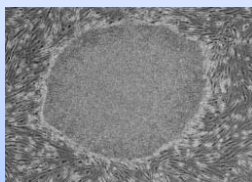
再生医療用の
iPS細胞樹立技
術の世界標準
化を強力に推進

- iPS細胞を安全につくる標準的な技術を確立
- 得られた細胞の評価系を構築
- 臨床用の様々な種類の良質なiPS細胞のストックを構築
- iPS細胞を用いた世界初の臨床研究(目の難病患者の網膜再生)が開始 (H26.9.12)(理研)

再生医療用iPS細胞ストック



GMPLレベル
iPS細胞製造



品質管理

安達 千波矢

九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター／センター長



スーパー有機
EL発光材料で
次世代産業を
切り拓く

- 従来材料を凌ぐ、安価と高効率を両立した新しい有機EL発光材料である「ハイパーフルオレッセンス」の創出に成功
- 日本発の新材料と戦略的な特許確保で日本の有機EL産業の活性化を目指す



開発した有機EL発光材料を用いて試作したディスプレイ

中須賀 真一

東京大学大学院工学系研
究科／教授



超小型衛星に
よる新たな宇
宙利用ビジネ
スを構築

- 独自理論「ほどよし信頼性工学」に基づき、従来では考えられない、3億円以下の低コスト、2年以内の短期開発で、50kg級の超小型衛星をFIRST期間中に4基開発
- うち、3基が26年度中に打ち上げられ、いずれも順調に運用中



完成した「ほどよし1号」



「ほどよし4号」により取得された画像